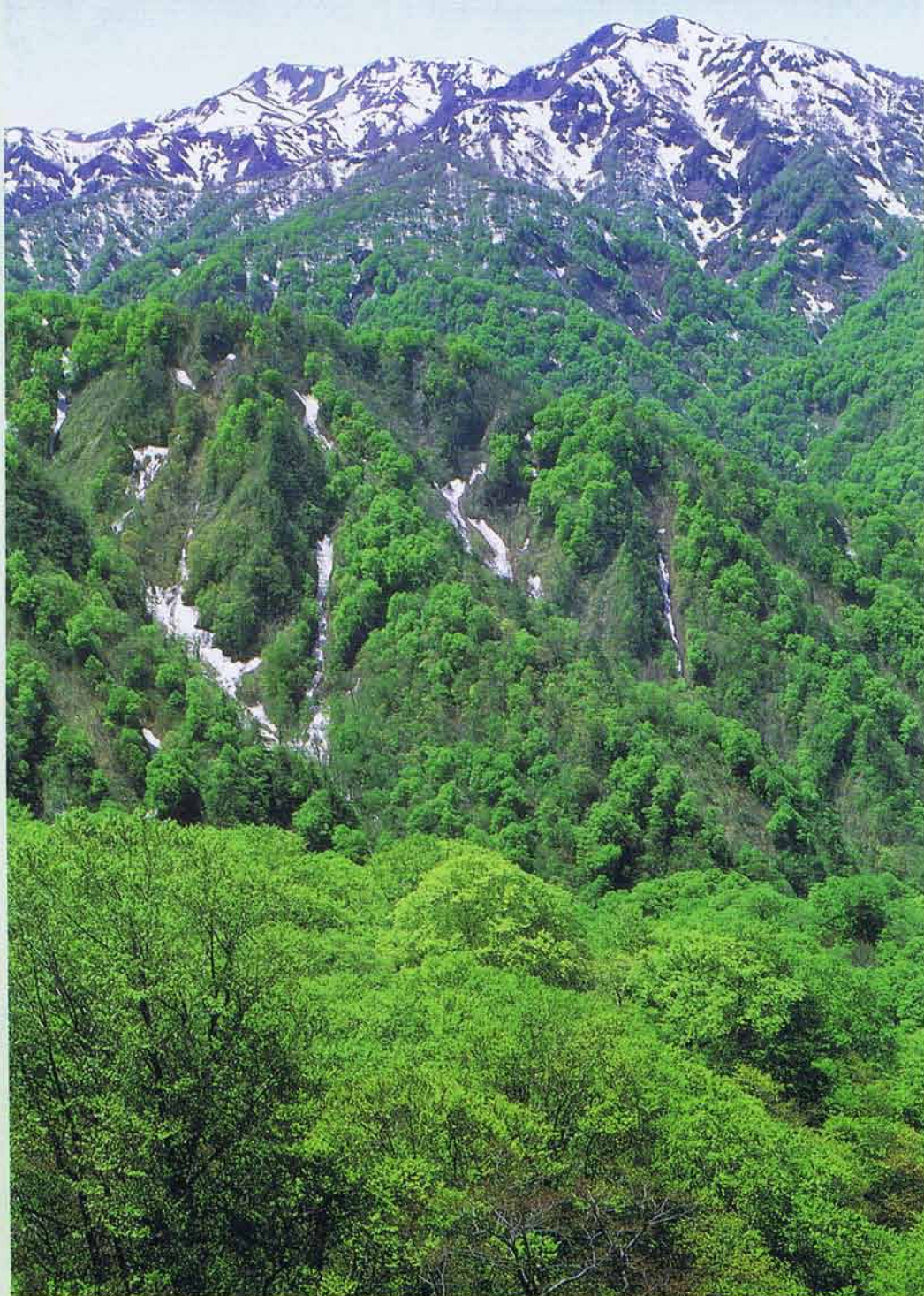


# 白神山地世界遺産地域管理計画



環境庁  
林野庁  
文化庁



## 白神山地世界遺産地域管理計画



### 前文

白神山地世界遺産地域（以下「遺産地域」という。）のブナ林は、純度の高さやすぐれた原生状態の保存、動植物相の多様性で世界的に特異な森林であり、氷河期以降の新しいブナ林の東アジアにおける代表的なものである。また、様々な群落型、更新のステージを示しつつ存在している生態学的に進行中のプロセスとして顕著な見本となっている。本地域のこうした自然環境は、「陸上・淡水域・沿岸・海洋の生態系や生物群集の進化発展において重要な進行中の生態学的生物学的過程を代表する顕著な見本である」と判断され、平成五年十二月、世界遺産条約に基づき世界遺産一覧表に登録された。

世界遺産登録の過程においては、平成五年六月、世界遺産委員会ビューロー会議から、①推薦地域の拡大、②法的地位の格上げ、③管理体制の改善を含む管理計画の策定を勧告され、これを受け、日本政府として世界遺産委員会事務局に対し、①推薦地域を拡大すること、②現行制度でも厳格な保護が担保されていることの確認、③関係省庁と両県による連絡会議を設け連携のとれた管理に努めるとともに管理計画を策定することを内容とする回答を同年九月に行った。世界遺産委員会は、日本政府のこの対応を評価し、一覧表への登録が認められたところである。以上の経緯を踏まえ、このたび、本管理計画を策定したものである。

なお、本管理計画の策定に当たっては、平成七年九月、骨子案を公表し、地元の意見を聴く会、文書による意見の受け付け等を通じて、出された関係者の意見等を参考にしつつ計画の策定を行った。



## 1 目的

本管理計画は、遺産地域の保全に係る各種制度を所管する関係行政機関（環境庁、林野庁、文化庁、青森県、秋田県をいう。以下同じ。）が、相互に緊密な連携を図ることにより、遺産地域を適正かつ円滑に管理することを目的とし、各種制度の運用及び各種事業の推進等に関する基本的方針を明らかにするものである。

## 2 遺産地域の概要

白神山地は、青森県南西部と秋田県北西部の県境にまたがる標高百メートルから千二百メートル余に

及ぶ山岳地帯の総称である。

地質は、主として中生代白亜紀にできた花崗岩類を基盤に、新生代新第三紀中新世の堆積岩とそれを貫く貫入岩類で構成されている。地形は、壮年期的な様相を呈し、深い谷が密に入り組んでおり、三十度以上の急傾斜地が半分以上を占めている。

当山地のブナ林内には多種多様な植物群落が生息し、かつブナ林を背景とした豊富な動物群が生息するなど、当山地は、我が国の固有種であるブナを主とする森林の博物館的景観を呈する地域である。

遺産地域は、この白神山地の核心部に位置し、都市から遠く離れ、傾斜が急峻で森林の伐採もほとん

ど行われていない。従来から、ごく限られた範囲の地元住民による山菜採り等の伝統的な利用がなされてきているが、ほとんど手つかずの状態になっており、白神山地の中でも人為的な影響をほとんど受けていない特に原生的なブナ林が残されてきた地域である。また、河川については、一部に堰堤があるものの、遺産地域内は良好な溪相がよく保たれている。本地域の保護の歴史は新しく、明確な制度的保護措置がとられたのは一九九〇年の森林生態系保護地域の設定、一九九二年の自然環境保全地域の指定等最近のことである。

遺産地域の概要は、次のとおりである。

### (1) 位置

遺産地域は、青森県南西部と秋田県北西部の県境にまたがる北緯四十度二十二分～四十度三十二分、東経百四十度二分～百四十度十二分に位置し、標高三百メートルから千二百四十三メートルの向白神岳に及ぶ山岳地帯である。

関係する町村は、

青森県西津軽郡鰺ヶ沢町、深浦町、岩崎村

中津軽郡西目屋村

秋田県山本郡藤里町

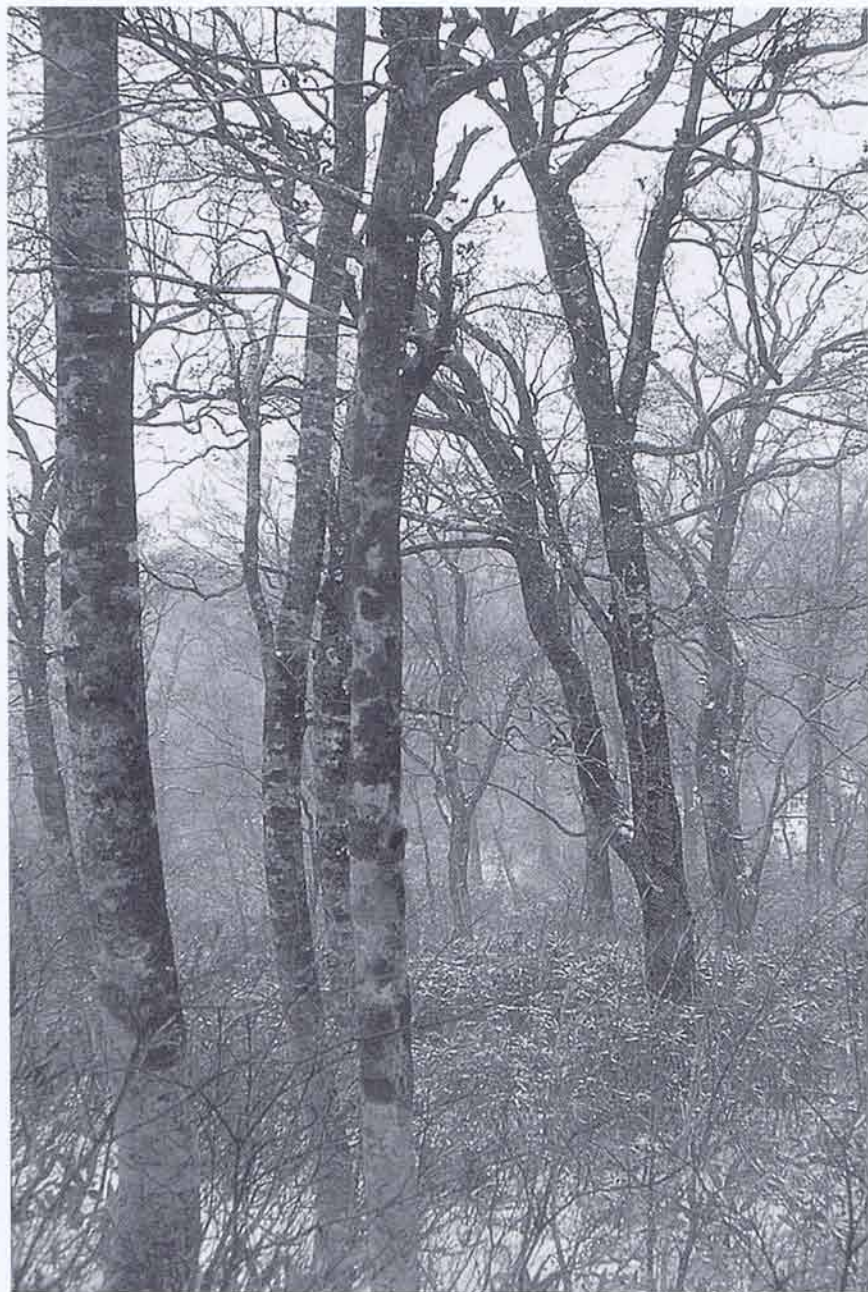
である。(図—1 位置図)

### (2) 面積等

遺産地域は、面積一万六千九百七十一ヘクタールで、その全域が林野庁所管の国有林野となっている。

### (3) 植物相

遺産地域には、我が国の冷温帯における気候的極相であるブナ林が原生的な状態で残存している。林内や山頂部の風衝地、崖すい、露頭部の岩れき地等において五百種以上の多様な植物が確認されている。この中には、アオモリマンテマ等の地域固有の植物や、トガクシシヨウマ等の分布が極めて限られている種、北限・南限に当たる種、あるいは高山植物などの貴重な植物も含まれている。





#### (4) 動物相

動物についても、遺産地域には豊かなブナ林を主な生息地として、多くの哺乳類、鳥類、昆虫類、は虫類、両生類、淡水魚類等が生息している。

中大型哺乳類に関しては、東北地方に分布する中大型哺乳類十六種のうち、非常に多い降雪量のため生息が困難なニホンジカ、イノシシを除く十四種が生息する。この中には、ニホンザル、ツキノワグマや特別天然記念物に指定されているニホンカモシカも含まれる。

鳥類については、天然記念物に指定されているイヌワシやクマゲラ、その他クマタカ、シノリガモ等貴重な種を含め八十四種の生息が確認されている。

昆虫類も豊富で、約二千種の生息が確認されている。この中には、分布の北限又は南限となっているものもある。

### 3 管理の枠組み

#### (1) 基本的な考え方

本地域の世界遺産としての価値を将来にわたって維持していくことを目標として、保全に係る各種制度の趣旨を踏まえつつ、遺産地域全体の一体となった管理を行う。

遺産地域を、①特にすぐれた植生を有し、また、人為の影響をほとんど受けていない核心的な地域(以下「核心地域」という。)、②核心地域の周辺部の緩衝帯としての役割を果たす地域(以下「緩衝地域」という。なお、本地域は、世界遺産委員会ビューロー会議の勧告を受けて推薦の拡大をした地域。の二種類に管理区分し、この管理区分に沿って管理を行う。

#### (図1-2 管理区分図)

#### 管理区分の面積

核心地域 一万百三十九ヘクタール

緩衝地域 六千八百三十二ヘクタール

計 一万六千九百七十一ヘクタール

#### (2) 地域指定制度等の概要

核心地域については、自然環境保全地域の特別地区及び野生動植物保護地区、国定公園の特別保護地区並びに森林生態系保護地域の保存地区として厳正に保護している。

緩衝地域については、自然環境保全地域の普通地区、森林生態系保護地域の保全利用地区として保全している。緩衝地域の一部には国定公園、県立自然公園も含まれている。(図1-3 地域指定区分図)

#### ア 自然環境保全地域

「自然環境保全地域」は、すぐれた天然林など一定の要件を満たす区域のうち、その区域における自然環境を保全することが特に必要なものについて、環境庁長官が「自然環境保全法」に基づき指定及び管理する地域である。

白神山地の核心部は、平成四年七月、同法に基づき「白神山地自然環境保全地域」に指定された。本地域には、特に保全を図るべき土地の区域である「特別地区」が九千八百四十四ヘクタール指定されており、工作物の新築、土地の形質の変更、土石の採取とされている。これと同一の地域が「野生動植物保護地区」に指定されており、保護対象となっている百八種類の植物の採取、損傷が禁止されている。これらの地区は、全て遺産地域の核心地域に含まれている。

特別地区以外の地域は「普通地区」であり、一定

規模をこえる工作物の新築、土地の形質の変更等の行為について環境庁長官への届出が必要とされている。普通地区は、すべて遺産地域の緩衝地域に含まれている。

#### イ 自然公園(国定公園、県立自然公園)

自然公園は、すぐれた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図り、もって国民の保健、休養及び教化に資することを目的として「自然公園法」に基づき指定される公園で、「国立公園」、「国定公園」、「都道府県立自然公園」の三種類がある。

本遺産地域には、環境庁長官が同法に基づき指定し、青森県知事が管理している「津軽国定公園」と、青森県知事が条例に基づき指定・管理している「赤石溪流暗門の滝県立自然公園」及び秋田県知事が条例に基づき指定・管理している「きみまち坂藤里峽県立自然公園」が含まれている。津軽国定公園には、公園の保護及び利用上重要な地域であって工作物の新築や木竹の伐採等の行為は県知事の許可が必要とされている「特別地域」、及び公園の核心的部分を厳正に保護する地域であって工作物の新築や木竹の伐採等に加え、動植物の採捕、落葉落枝の採取やたき火なども県知事の許可が必要とされている「特別保護地区」が指定され、それぞれの地種区分に応じて規制されている。両県立自然公園には特別地域が指定され、同様の規制が行われている。

#### ウ 森林生態系保護地域

「森林生態系保護地域」は、我が国の森林帯を代表する原生的な天然林が相当程度まとまって存在する地域を保存することによって、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資するこ



とを目的として林野庁が「国有林野管理経営規程」に基づき設定及び管理する地域である。

白神山地の核心部のブナ林を中心とした地域は、本制度に基づき、平成二年三月、「白神山地森林生態系保護地域」に設定された。最も原生的状況を呈する林分であり、森林生態系の厳正な維持を図る地域である「保存地区」は、学術研究や非常災害時の応急処置のための行為等を除き、原則として、人手を加えずに自然の推移に委ねることとしている。保存地区の森林に外部の環境変化の影響が直接及ばないよう緩衝の役割を果たす地区である「保全利用地区」については、木材生産を目的とする森林施業は行わず、自然条件等に応じて、森林の教育的利用、大規模な開発行為を伴わない森林レクリエーションの場としての活用を行うものとしている。

遺産地域は、全域が森林生態系保護地域と重複しており、その保存地区が本計画の「核心地域」と、保全利用地区が「緩衝地域」と一致している。

## エ 天然記念物

文部大臣は、「文化財保護法」に基づき、動植物(生息地、繁殖地、渡来地及び自生地を含む)、地質鉱物(特異な自然現象の生じている地域を含む)で我が国にとって学術上価値の高いもののうち重要なものを「天然記念物」に、「天然記念物」のうち特に重要なものを「特別天然記念物」に指定することができる。

遺産地域に生息・生育する動植物のうち、ニホンカモシカが特別天然記念物に、また、クマゲラ、イヌワシ、ヤマネの三種が天然記念物に指定されており、その現状を変更し、またはその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは文化庁長官の許可が必要である。

## (3) 管理体制

遺産地域は、上記の各種制度を所管する環境庁、林野庁、文化庁、青森県及び秋田県が密接な連携の下に一体となった管理を行う。

より効果的な協力、連携を図るため、遺産地域の管理に当たっては、上記の関係行政機関の連絡調整の場として「白神山地世界遺産地域連絡会議」(以下「連絡会議」という。)を設置し、相互の協力、連携を図りつつ、一体となって遺産地域の適正かつ円滑な管理を行う。

また、遺産地域の管理を効果的に実施するためには、地元の理解と協力の増進が不可欠であることから、連絡会議と地元の市町村及び関係団体等との連携を図る。

## 4 管理の方策

### (1) 基本方針

世界遺産としての価値を損なうことのないよう、核心地域、緩衝地域の管理区分に沿って的確に保全を図る。

一体となって効率的及び効果的な管理の実施を図る観点から、関係行政機関は、相互に連携を図るとともに、連絡会議の場等を通じて、連絡調整に努める。

### ア 核心地域

人手を加えずに自然の推移に委ねることを基本とし、工作物の新築や土石の採取など、自然環境の保全上支障を及ぼすおそれのある行為は、学術研究等特別の事由がある場合を除き、各種保全制度に基づき厳正に規制する。

特に、世界遺産一覧表への登録による知名度の上昇により、遺産地域の一部で入山者が急増し、人の入込みによる自然環境への影響が懸念されているこ





とを踏まえ、既存の歩道を利用した登山等を除き、本地域への立ち入りは規制するものとする。なお、規制の態様については、入り込みの状況、地元の意見等を踏まえ、更に検討を進める。

#### イ 緩衝地域

必要に応じ、一定の行為を規制し、現状の保全を図る。特に、核心地域の自然環境に影響を及ぼす行為については、厳正に規制する。

なお、木材生産を目的とする森林施業は行わないこととし、本地域内に含まれる既存の人工林は複層林施業等により、将来は天然林に導くものとする。

#### (2) 動植物の保護

管理区分に沿いつつ、各種制度に基づき動植物の保護の徹底を図る。

ツキノワグマをはじめとする動物については、今後とも自然環境の調査、モニタリングを実施するとともに、その結果等を踏まえ、「鳥獣保護及狩猟二関スル法律」に基づく「鳥獣保護区」の設定を含む所要の保護措置を的確に実施する。

#### ア 核心地域

木竹の伐採及び植物の採取は、学術研究等特別の事由を除き、厳正に規制する。天然記念物に指定されている動物の捕獲並びに繁殖を妨げる行為は、厳正に規制する。

土地の形質変更など動植物の生息・生育環境に影響をもたらす行為は、厳正に規制する。

#### イ 緩衝地域

動植物の生息・生育環境に支障を及ぼすおそれのある土地の形質変更等の行為を規制し、動植物の保

護を図る。天然記念物に指定されている動物の捕獲並びに繁殖を妨げる行為については、厳正に規制する。

#### (3) 野外レクリエーションの取扱い

白神山地の自然が有する世界遺産としての価値を損なわないよう、以下の管理区分ごとの方針に即して、野外レクリエーションの適正な誘導を図る。

なお、遺産周辺地域の林道のうち、核心地域への利用者の入り込みに影響を及ぼす可能性のあるものについては、一般車両の通行の規制等アクセスの適正化について検討する。

#### ア 核心地域

既存の歩道を利用した登山等については、植生等への悪影響が生じないよう適正な利用へ誘導する。その他の野外レクリエーションについては規制する。

#### イ 緩衝地域

各種制度の趣旨に反しない範囲において、森林の文化・教育的利用、簡易な森林レクリエーションの場、すぐれた自然とのふれあいの場として利用することが出来るものとする。

#### (4) 管理事業の実施

遺産地域の管理を行うに当たっては、地元の理解と協力の増進に努め、より適切な管理の実施を図る。

#### ア 巡視

環境庁及び林野庁は相互に連携を図りつつ、遺産地域の管理の一環として、森林管理署等職員等による遺産地域内の巡視活動を適宜実施する。また、こ





れを補完するため、民間のボランティアに巡視を委嘱する。

青森県及び秋田県は、遺産地域の管理に関し、それぞれ自然保護指導員を委嘱して巡視活動を実施する。

今後とも、これらの巡視体制を充実するほか、地域全体における一層の効果的な巡視を図るため、連絡会議においてその調整を行うことなどにより、関係機関の連携を強化する。

司法警察員としての資格を有する森林管理署等職員等については、違法行為の取締を迅速に行うため、巡視活動の充実を図るとともに、違法行為発見時における関係機関への連絡体制の強化等を図っていく。

#### イ 管理施設の整備

遺産地域の適切な管理を促進するため、自然環境への影響に配慮しつつ、必要に応じ標識、巡視歩道等の管理施設の整備を行う。

#### (5) 情報提供、環境教育活動

遺産地域の価値や保護の必要性について、情報提供や環境教育等を通じて、国民の理解と協力を増進することが重要である。このため、遺産地域に関する自然や文化、利用施設等について情報提供の体制を整備するとともに、白神山地の自然が有する世界遺産としての価値についての解説、来訪者自身が学習する場や機会の提供を積極的に行う。

具体的には、当面次のような施策を講じる。

- ① 適切な地域に、遺産地域についての展示、解説等を行う施設を整備する。
- ② 森林の仕組み、働き及び森林との接し方についての普及啓発を森林管理局（分局）・署等及び藤里森

林センターにおいて推進する。

- ③ 保護意識の普及、啓発のためのポスター、リーフレットを作成し、適宜、掲示や来訪者への配布を行う。また、案内板、解説板、標識等を設置する。

- ④ 環境教育活動に関するプログラムを研究、開発する。また、遺産地域内での自然観察の指導や登山指導のあり方について検討する。

#### (6) 調査研究、モニタリング

遺産地域の自然環境については、未解明の部分が多々残されていることから、学術研究上必要な調査や長期にわたるモニタリング等を実施し、基礎的なデータの収集に努める。特に、遺産地域の自然環境及び人為の影響等について長期的なモニタリングを実施する。

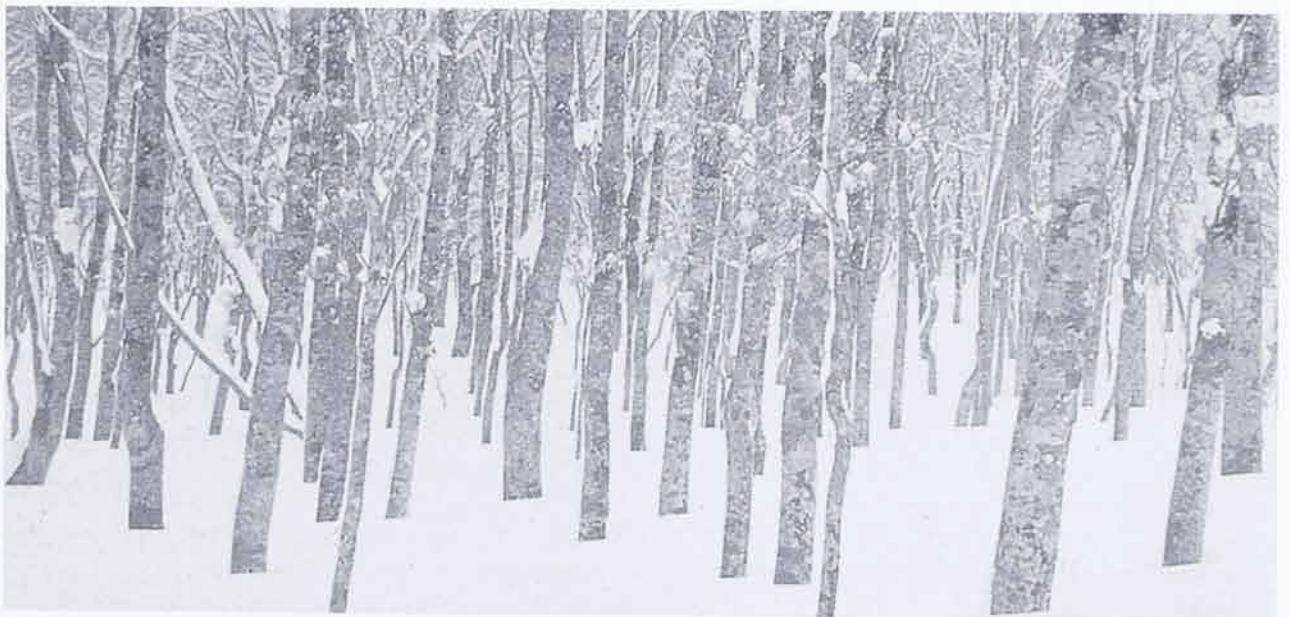
また、調査研究、モニタリングのための拠点施設を整備し、データの集積、提供、標本の保管などを実施する。特に、「白神山地世界遺産センター」等の研究拠点の整備を図る。

さらに、調査研究、モニタリングについて、関係団体等と連携、協力が図れるものについて、積極的に対応する。

#### 5 計画の実施その他の事項

狩猟、山菜採り、魚釣り、野外レクリエーション等の細部にわたる取扱いについては、本管理計画を基に、必要に応じ地元関係者等の意見を聴きつつ、適宜連絡会議において確認していくものとする。

なお、本管理計画は、社会条件の変化等を踏まえ、必要に応じ、見直しを行うものとする。その際には、地元関係者等の意見を聴くこととする。





白神山地世界遺産に係る各種制度の概要					
制度名	目的等	地域区分及び面積	管理区分	規制内容等	備考
自然環境保全 地域 (白神山地自然環境保全地域)	すぐれた天然林など一定の要件を満たす区域のうち、自然的社会的諸条件から見てその区域における自然環境を保全することが特に必要な地域	特別地区 9,844ha	核心地域	環境庁長官の許可が必要な行為(第25条)①工作物の新築・改築・増築、②土地の形質の変更、③土石の採取、④水面の埋立、⑤河川等の水位・水量の増減、⑥木竹の伐採、⑦指定湖沼等への汚排水の排水、⑧車馬等の乗り入れ	自然環境保全法
		野生動植物保護地区 9,844ha (上記と同一の区域)	核心地域	108種の植物の採取、損傷の規制。(保護すべき野生植物の種類については下記参照)(第26条)	
		普通地区 4,199ha	緩衝地域	環境庁長官に届出が必要な行為(第28条) ①一定規模以上の工作物の新築・改築・増築、②土地の形質の変更、③土石の採取、④水面の埋立、⑤特別地域内の河川等の水位・水量の増減	
自然公園 (津軽国定公園)	優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図り、もって国民の保健、休養及び教化に資する公園	特別地域 624ha	緩衝地域	青森県知事の許可が必要な行為(第17条) ①工作物の新築・改築・増築、②木竹の伐採、③土石の採取、④河川等の水位・水量の増減、⑤指定湖沼等への汚排水の排水、⑥広告物の設置、⑦水面の埋立、⑧土地の形質の変更、⑨指定植物の採取、⑩色彩の変更、⑪車馬等の乗り入れ	自然公園法
		特別保護地区 344ha	核心地域 緩衝地域	青森県知事の許可が必要な行為(第18条) 上記①～⑧、⑩～⑪に加え、⑫木竹の損傷、⑬木竹の植栽、⑭家畜の放牧、⑮物の集積、⑯火入れ、⑰落葉落枝の採取、⑱動物の捕獲	
(赤石溪流 暗門の滝県 立自然公園)		特別地域 1,952ha	緩衝地域	青森県知事の許可が必要な行為 (国定公園特別地域と同じ行為)	青森県 自然公園条例
(きみまち 坂藤里峡県 立自然公園)		特別地域 8ha	緩衝地域	秋田県知事の許可が必要な行為 (国定公園特別地域と同じ行為)	秋田県 自然公園条例
森林生態系 保護地域 (白神山地 森林生態系 保護地域)	原生的な天然林を保存することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業管理技術の発展、学術研究等に資する地域	保存地区 10,139ha	核心地域	原則として、人手を加えずに自然の推移に委ねる。 (モニタリング、学術研究その他公益上の事由により必要と認められる行為、非常災害のための応急措置、その他法令等に基づく行為等はこの限りでない。)	保護林の再編・拡充について(平成元年4月林野庁長官通達)
		保全利用地区 6,832ha	緩衝地域	木材生産を目的とする森林施業は行わない。(人工林がある場合は、複層林施業ができる。)森林の教育的利用、大規模な開発行為を伴わない森林レクリエーションの場としての活用はできる。	
天然記念物 (種指定のみ)	動物、植物及び地質鉱物で我が国にとって学術上の価値の高いもの	特別天然記念物 ニホンカモシカ、 天然記念物 クマゲラ、イヌワシ、ヤマネ		現状を変更し又はその保存に影響を及ぼす行為は文化庁長官の許可が必要(第80条)	文化財保護法

## 野生動植物保護地区において保護すべき野生動植物の種類

ヒモカズラ、エゾフユノハナワラビ、リシリシノブ、ミヤマシシガシラ、ホテイシダ、ハイマツ、キャラボク、ミツモリミミナグサ、センジュガンビ、アオモリマンテマ、キクザキイチリンソウ、サンリンソウ、ミヤマハンショウヅル、ミツバオウレン、ミヤマキンボウゲ、シラネアオイ、サンカヨウ、キバナイカリソウ、トガクシショウマ、イワオトギリ、オシマオトギリ、エゾノイワハタザオ、ミヤマガラシ、ツガルミセバヤ、ミヤママンネングサ、ウメバチソウ、ヤシャビシャク、シコタンソウ、ウチワダイモンジソウ、フキユキノシタ、イワキンバイ、ミヤマキンバイ、ミネザクラ、マルバシモツケ、エゾノシロバナシモツケ、イワオウギ、ツガルフジ、チシマフウロ、オオバキスミレ、ミヤマスミレ、ミヤマツボスミレ、ゴゼンタチバナ、ハクサンサイコ、シラネニンジン、イワカガミ、イワウチワ、ギンリョウソウ、イワナシ、ウラジロコヨウラク、ウラジロヨウラク、ムラサキヤシオ、ハクサンシャクナゲ、ミヤマホツツジ、イワツツジ、コケモモ、オオサクラソウ、ツマトリソウ、エゾリンドウ、エゾオヤマリンドウ、オオバノヨツバムグラ、エゾハナシノブ、タテヤマウツボグサ、イブキジャコウソウ、オオバミゾホオズキ、エゾシオガマ、ミヤマクワガタ、クガイソウ、マルバキンレイカ、アサギリソウ、オニアザミ、ミネアザミ、トガヒゴタイ、ミヤマアキノキリンソウ、シロウマアサツキ、ミヤマラッキョ、ツバメオモト、カタクリ、ニッコウキスゲ、クルマユリ、キンコウカ、チャボゼキショウ、タマガワホトトギス、エンレイソウ、コバイケイ、オガタチイチゴツナギ、ミズバショウ、ザゼンソウ、サギスゲ、コアニチドリ、サルメンエビネ、イチヨウラン、コイチヨウラン、アケボノシュスラン、ヒロハツリシュスラン、ノビネチドリ、フジチドリ、フガクスズムシ、ジガバチソウ、クモキリソウ、アリドオシラン、ハクサンチドリ、ウチヨウラン、コケイラン、ジンバイソウ、ヤマサギソウ、クソチドリ、オオヤマサギソウ、ショウキラン



# 管理体制の概要

## 1 白神山地世界遺産地域連絡会議会則(抜粋)

### (目的)

第二条 会議は、世界遺産一覧表に登録された白神山地の適正な保全管理の推進を図るため、関係機関相互の連絡調整を行うことを目的とする。

### (組織)

第三条 会議は次に掲げる機関を以て組織する。

東北地区国立公園・野生生物事務所

東北森林管理局

同 青森分局

青森県

青森県教育委員会

秋田県

秋田県教育委員会

### (会議事項)

第四条 会議は、第二条の目的を達成するため、次の事項を協議・調整する。

(一) 関係機関の保全管理施策の実施に係る必要な協力の推進等所要の事項。

(二) 管理計画に関する事項。

(三) その他、保全管理の円滑な実施の推進に係る内容で会議において必要と認められた事項。

### (幹事)

第五条 会議に幹事をおく。

(一) 幹事は、次の者をあてる。

東北地区国立公園・野生生物事務所

東北森林管理局計画第一部

世界自然遺産生態管理官

指導普及課長

## 2

### 本庁担当部局

環境庁自然保護局計画課

林野庁指導部計画課

林野庁国有林野部経営企画課

文化庁文化財保護部記念物課

同 青森分局計画第二部

青森県環境保健部

農林部

青森県教育委員会

秋田県生活環境部

林務部

秋田県教育委員会

指導普及課長

自然保護課長

林政課長

文化課長

自然保護課長

林政課長

文化課長

(二) 幹事は、会議の運営を円滑に進めるため、必要に応じ幹事会を開催するほか、関係機関の連絡調整にあたる。





# 世界遺産条約の概要

## 1 名称

世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約

## 2 目的

世界の文化遺産及び自然遺産を保護するため、保護を図るべき遺産をリストアップし、締約国の拠出金からなる世界遺産基金により、各国が行う保護対策を援助する。

## 3 概要

採択年月日…一九七二年十一月十六日（於パリ、ユネスコ第十七回総会）

発効年月日…一九七五年十二月十七日

締約国数…百四十二か国（一九九五年九月一日現在）

主な締約国…アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、ロシア、中国、日本

世界遺産…現在、イエローストーン国立公園（アメリカ合衆国）、ピラミッド（エジプト）等四百四十（自然九十七、文化三百二十六、複合十七）

の遺産が世界遺産一覧表に記載されている（一九九四年十二月十七日現在）。

事務局…UNESCO

## 4 世界遺産の定義

文化遺産…歴史上、美術上、科学上顕著な普遍的価値を有する記念工作物、建造物、遺跡等

自然遺産…観賞上、学術上又は保存上顕著な普遍的価値を有する特徴ある自然の地域、脅威にさらされている動植物の種の生息地、自然の風景地等

## 5 白神山地の世界遺産登録に係る経緯

一九九〇年三月 白神山地森林生態系保護地域の設定

一九九二年六月 国会において世界遺産条約を承認。条約事務局へ受諾書を提出

七月 白神山地自然環境保全地域の指定

九月 同条約が我が国に関して発効

十月 自然遺産の候補地として「白神山地」と「屋久島」を世界遺産委員会に推薦

一九九三年五月 IUCN（国際自然保護連合）の現地調査

六月 世界遺産委員会ビューロー会議（三項目の勧告）

九月 日本政府としてビューロー会議勧告への回答

十二月 世界遺産委員会（コロンビア）において世界遺産一覧表への登録決定







クマゲラ  
*Dryocopus martius*







ウチョウラン  
*Orchis graminifolia*



イネ科の仲間  
POACEAE (GRAMINEAE)

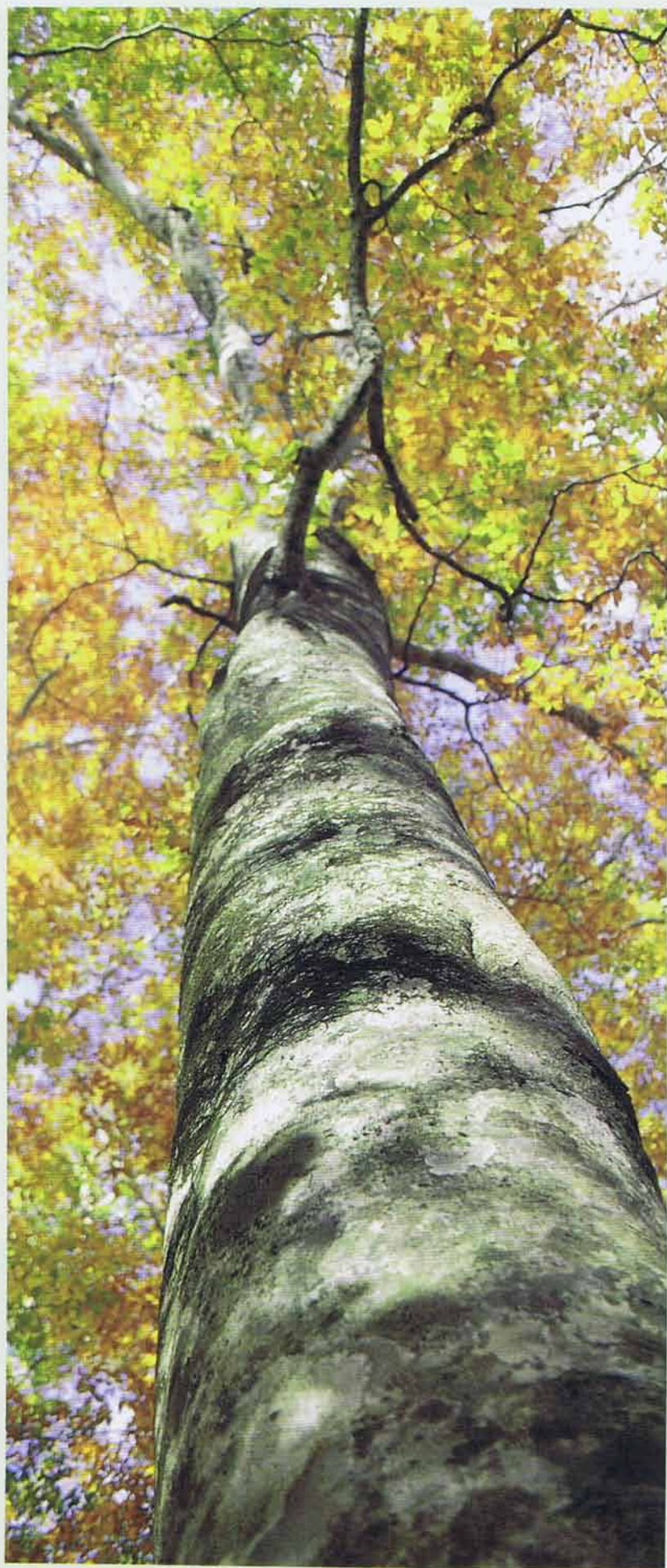


アオモリマンチュ  
*Silene aomorenensis*



モリアオガエル  
*Rhacophorus arboreus*





ブナ  
*Fagus crenata*



ミヤマクワガタ  
*Pseudolysimachion schmidtianum* ssp. *senanense*



オオゴマシジミ  
*Maculinea arionides takamukai*



シノリガモ  
*Histrionicus histrionicus*



図1 白神山地位置図  
Location Diagram

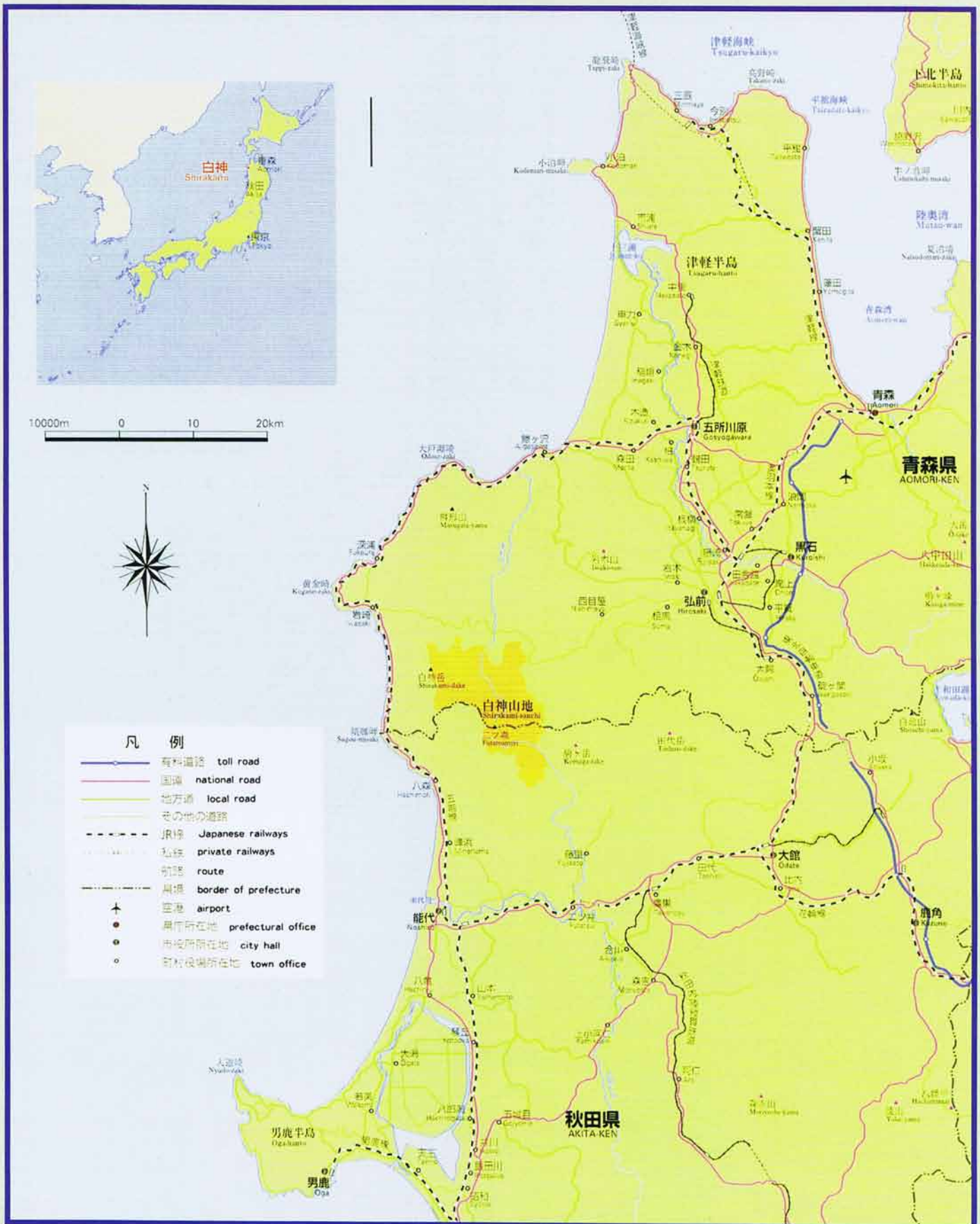
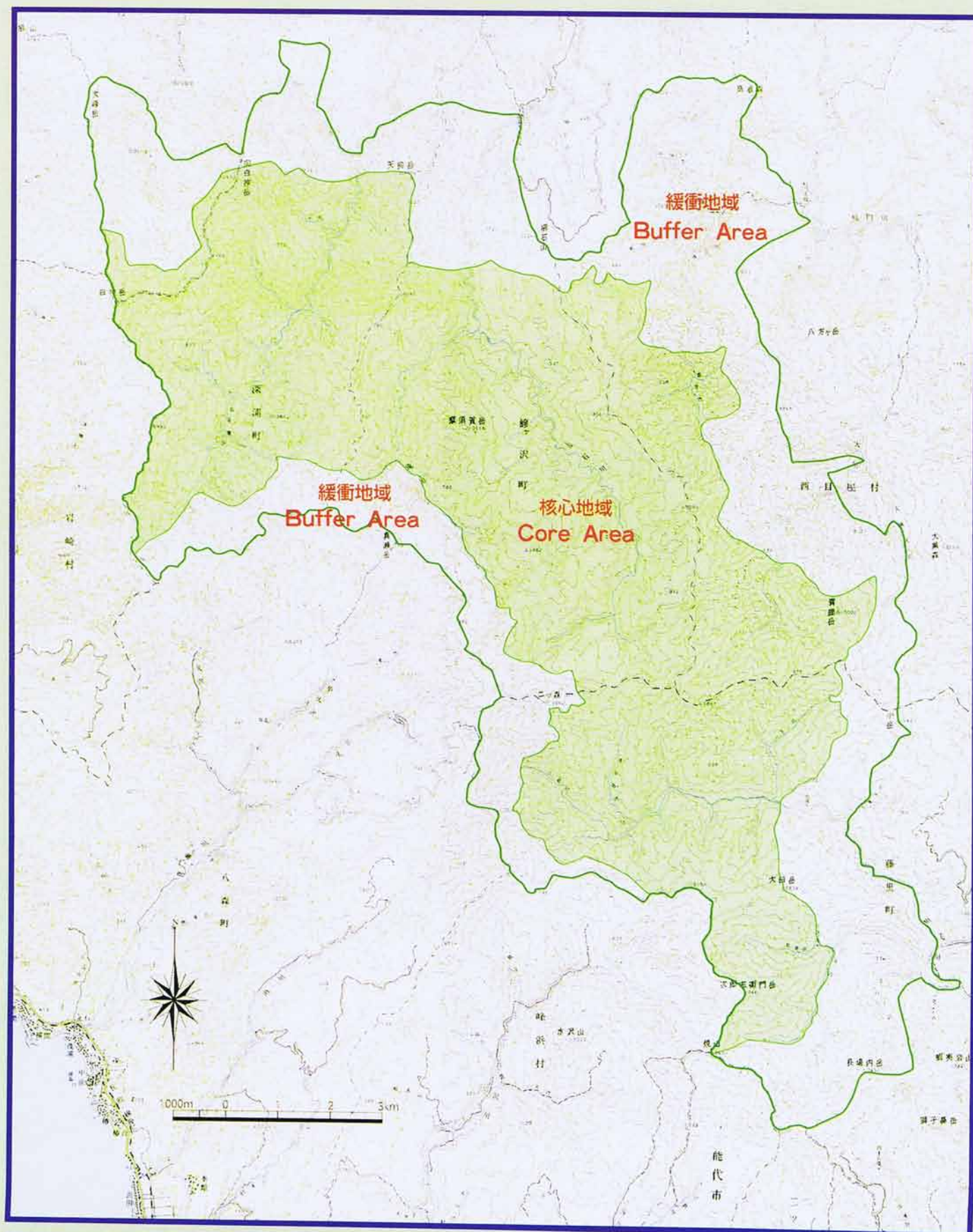




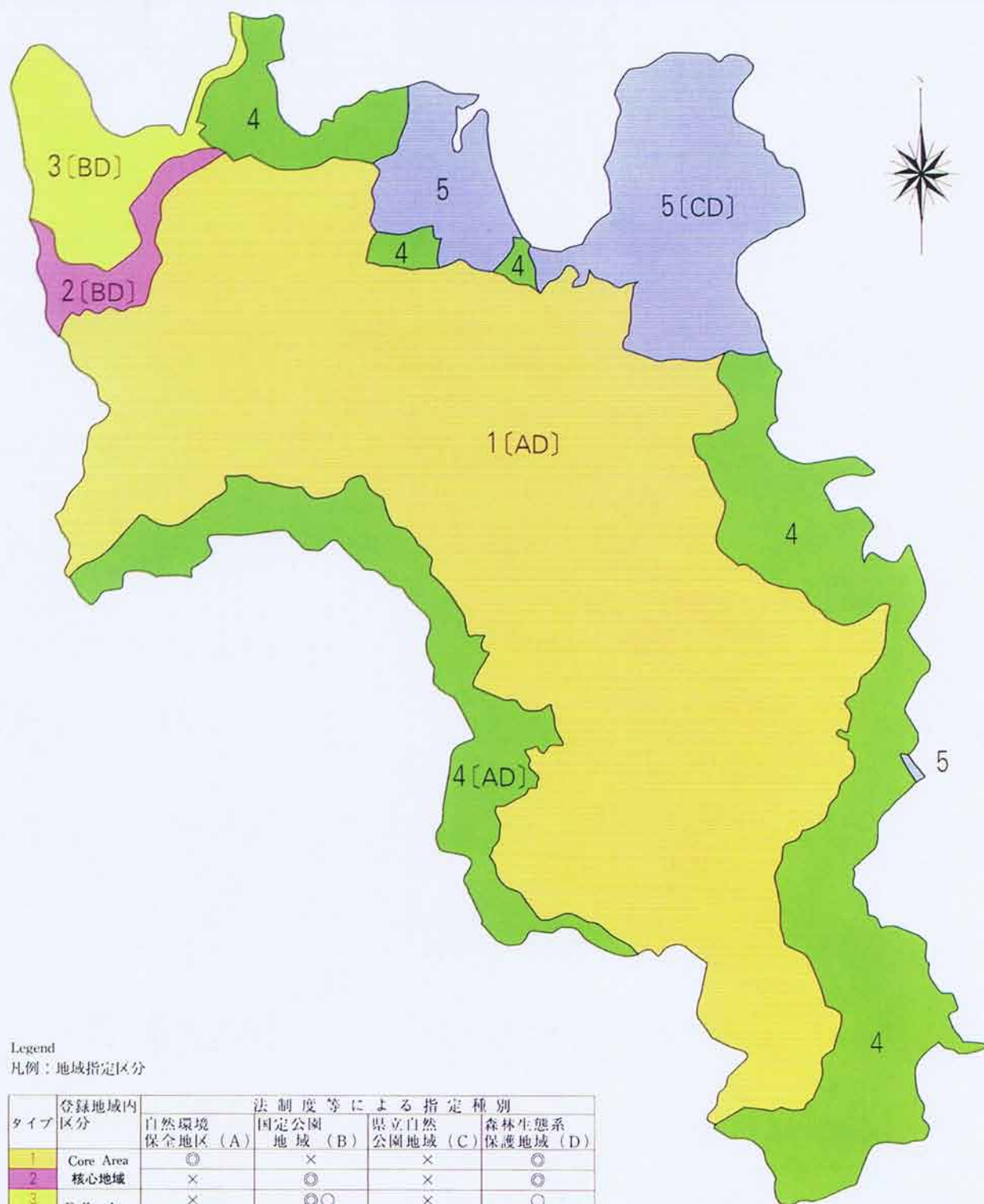
図2 白神山地世界遺産地域管理区分図  
Management classification of the World Heritage Area



「この地図は、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図を使用したものである。」



図3 白神山地世界遺産地域 地域指定区域図  
Designation Division Map



Legend

凡例：地域指定区分

タイプ	登録地域内 区分	法制度等による指定種別			
		自然環境 保全地区 (A)	国定公園 地域 (B)	県立自然 公園地域 (C)	森林生態系 保護地域 (D)
1	Core Area	◎	×	×	◎
2	核心地域	×	◎	×	◎
3	Buffer Area	×	◎○	×	○
4		○	×	×	○
5	緩衝地域	×	×	○	○

◎：特別地区 (野生動植物保護地区)  
○：特別地区  
◎：特別保護地区  
○：特別地区  
◎：保存地区  
○：安全利用地区

(A) Conservation Area (C) Prefectural Park  
(B) Quasi-National Park (D) Forest Ecosystem Reserve

1000m 0 1 2 3km





ニホンカモシカ  
*Capricornis crispus*



ツガルミセバヤ  
*Hylotelephium tsugaruense*



イスワシ  
*Aquila chrysaetos japonica*



ニホンザル  
*Macaca fuscata*



---

# Outline for the World Heritage Convention

## 1 Designation:

Convention for the Protection of the World Cultural and Natural Heritage

## 2 Aim:

To list the heritage sites that need protection and, to assist each nation's measures to protect heritage sites with the World Heritage Fund made up of donations from member countries, in order to protect cultural and natural heritage around the world.

## 3 Summary:

**Date of Adoption:** 16 November 1972 (17th UNESCO General Conference in Paris)

**Effective Date:** 17 December 1975

**Member States:** 142 nations (as of 1 September 1995)

**Major Signatories:** United States of America, United Kingdom, France, Germany, Italy, Russia, People's Republic of China, Japan

**World Heritage Sites:** Currently, there are 440 properties (95 Natural, 326 Cultural, 17 Combined) such as Yellowstone National Park (USA) and the Pyramids (Egypt), etc., listed on the 1994 UNESCO World Heritage List.

**Secretariat:** UNESCO

## 4 Definitions of World Heritage:

**Cultural heritage:** architectural works; monuments (sculpture and paintings); elements or structures of an archaeological nature, etc. which are of outstanding universal value from the point of view of history, art or science.

**Natural heritage:** natural features consisting of physical and biological formations or groups of such formations, geological and physiographical formations and precisely delineated areas which constitute the habitat of threatened species of animals and plants, natural sites or precisely delineated natural areas of outstanding universal value from the perspective of aesthetics, science, conservation, or natural beauty.

## 5 The details of the events surrounding the inscription of Shirakami-sanchi on the World Heritage List

March 1990	Shirakami – sanchi Forest Ecosystem Reserve established.
June 1992	The National Diet approved the World Heritage Convention. The Government submitted a letter of acceptance of the Convention to the Secretariat.
July	Designation of Shirakami-sanchi as a Nature Conservation Area.
September	The above Convention came into effect in Japan.
October	The Government nominated Shirakami-sanchi and Yakushima as candidates as Natural Heritage sites to the World Heritage Committee.
May 1993	IUCN (International Union for the Conservation of Nature and Natural Resources) conducted an area study.
June	The Bureau Session of the World Heritage Committee (Three recommendations given.)
September	Japanese Government responded to the recommendations from the session of the Bureau.
December	Decision at the World Heritage Committee meeting in Colombia to inscribe Shirakami-sanchi and Yakushima on the World Heritage List.



---

# Outline of the Management Position

## 1 The rules of the Shirakami-sanchi World Heritage Area Liaison Committee (Excerpts)

### (Aim)

Article 2: This committee seeks to promote the appropriate conservation and management of the World Heritage List inscribed Shirakami-sanchi. To this end, we aim to facilitate mutual communication and coordination among the organizations concerned.

### (Composition of the Committee)

Article 3: The Committee shall be comprised of the following organizations:

Tohoku District National Parks and Wildlife Office

Aomori Regional Forestry Office

Akita Regional Forestry Office

Aomori Prefecture

Aomori Prefecture Board of Education

Akita Prefecture

Akita Prefecture Board of Education

### (Matters of the Committee)

Article 4: To achieve the aims set out in Article 2, this committee shall discuss and coordinate the following particulars:

(1) Matters that are necessary to facilitate cooperation among the organizations concerned with regard to the implementation of conservation and management measures.

(2) Matters concerning Management Plan.

(3) Other matters that are deemed necessary by the Committee to facilitate the smooth implementation of conservation and management measures.

### (Secretaries)

Article 5: Secretaries shall be set up in the Committee.

(1) The following will be eligible to be a secretary:

Chief, National Parks Management Section, Tohoku District National Parks and Wildlife Office

Director, Guidance Division, Forestry Management Department, Aomori Regional Forestry Office,

Director, Guidance Division, Forestry Management Department, Akita Regional Forestry Office

Director, Nature Conservation Division, Environment and Health Department, Aomori Prefecture

Director, Forestry Administration Division, Agriculture and Forestry Department, Aomori Prefecture

Director, Culture Division, Board of Education, Aomori Prefecture

Director, Nature Conservation Division, Life and Environment Department, Akita Prefecture

Director, Forestry Administration Division, Forestry Department, Akita Prefecture

Director, Culture Division, Board of Education, Akita Prefecture

(2) The Secretaries shall, in order to facilitate the smooth operation of the meeting, hold a Secretaries' meeting whenever necessary, and shall facilitate communication and coordination among the organizations concerned.

## 2. Responsible Central Government Agencies

Planning Division, Nature Conservation Bureau, Environment Agency

Planning Division, Private Forest Department, Forestry Agency

Management Planning Division, National Forest Management Department, Forestry Agency

Monuments and Sites Division, Cultural Properties Protection Department, Agency for Cultural Affairs

---



Name of systems	Aims, etc.	Zonings and each area	Management classification	Details of the restrictions, etc.	Notes
Forest Ecosystem Reserve (Shirakami-sanchi Forest Ecosystem Reserve)	Conservation forests which contribute to the maintenance of the natural environment that is made up of the forest ecosystem, the protection of plants and animals, preservation of the gene pool, advancement of forestry management and techniques, and academic research through preserving primitive forests.	Preservation Area, 10,139 hectares	Core Area	Principally, this area will be left to natural succession without human disturbance. (Monitoring, academic research and other activities that contribute to the larger public welfare, emergency measures caused by natural disasters and other legally grounded measures are excluded by this restriction.)	On the reformation and expansion of Conservation Forests (Order by Director of the General Forestry Agency, April 1989)
		Conservation and Utilization Area, 6,832 hectares	Buffer Area	No forestry operations for the purpose timber production is conducted in this area (where an artificial forest is growing, multiple forest management may be conducted.) Educational and recreational use that does not accompany large-scale development is permissible.	
Natural Monuments (designated species).	Animals, plants and geological minerals that are of great academic interest in Japan.	Special Natural Monuments: Japanese serow (Capricornis crispus) Natural Monuments: black woodpecker (Dryocopus mortius), golden eagle (Aquila chrysaetos japonica), dormouse (Glirulus japonicus)		Activities that may change the present situation or have an effect on the preservation of the current situation need the approval of the Commissioner for Cultural Affairs. (Article 80)	Law on the Protection of Cultural Properties

List of animals and plants which needs protection in the Wildlife Protection Zone.

*Selaginella shakotanensis*, *Botrychium multifidum* var. *robustum*, *Cryptogramma crispa*, *Struthiopteris castanea*, *Lepisorus annuifrons*, *Pinus pumila*, *Taxus cuspidata* var. *nana*, *Lychnis gracillima*, *Silene aomorenensis*, *Deeringia amaranthoides*, *Anemone stolonifera*, *Clematis alpina* ssp. *ochotensis* var. *fujijamana*, *Coptis trifolia*, *Ranunculus acris* var. *nipponicus*, *Glaucidium palmatum*, *Diphylleia grayi*, *Epimedium koreanum*, *Ranzania japonica*, *Hypericum kamtschaticum* var. *hondoensis*, *Hypericum vulcanicum*, *Arabis serrata* var. *glauca*, *Barbarea orthoceras*, *Hylotelephium tsugaruense*, *Sedum japonicum* var. *senanense*, *Parnassia palustris* var. *multisetata*, *Ribes ambiguum*, *Saxifraga cherlerioides* var. *rebunshirensis*, *Saxifraga fortunei* var. *obtusocuneata*, *Saxifraga japonica*, *Potentilla dickinsii*, *Potentilla matsumurae*, *Prunus nipponica*, *Spiraea betulifolia* f. *glaucina*, *Spiraea miyabei*, *Hedysarum vicioides*, *Vicia fauriei*, *Geranium erianthum*, *Viola brevistipulata*, *Viola selkirkii*, *Viola verecunda* var. *fibrillosa*, *Cornus canadensis*, *Bupleurum nipponicum*, *Tilingia ajanensis*, *Schizocodon soldanelloides*, *Monotropastrum humile*, *Epigaea asiatica*, *Menziesia multiflora*, *Rhododendron albrechtii*, *Rhododendron brachycarpum*, *Tripetaleia bracteata*, *Vaccinium praestans*, *Vaccinium vitis-idaea*, *Primula jesoana*, *Trientalis europaea*, *Gentiana triflora* var. *japonica*, *Galium kamtschaticum* var. *acutifolium*, *Polemonium coeruleum* ssp. *yezoense*, *Prunella prunelliformis*, *Thymus serpyllum* ssp. *quinquecostatus*, *Mimulus sessilifolius*, *Pedicularis yezoensis*, *Pseudolysimachion schmidtianum* ssp. *senanense*, *Veronicastrum japonicum*, *Patrinia gibbosa*, *Artemisia schmidtiana*, *Cirsium borealinipponense*, *Cirsium inundatum* var. *alpicola*, *Saussurea nipponica* var. *muramatsui*, *Solidago virgaurea* var. *leiocarpa*, *Allium schoenoprasum* var. *orientale*, *Clintonia udensis*, *Erythronium japonicum*, *Lilium medeoloides*, *Nartheicum asiaticum*, *Tofieldia coccinea* var. *kondoi*, *Tricyrtis latifolia*, *Trillium smallii*, *Veratrum stamineum*, *Lycoris traubii*, *Lysichiton camtschaticense*, *Symplocarpus foetidus* var. *latissimus*, *Eriophorum gracile*, *Amitostigma kinoshitae*, *Calanthe tricarinata*, *Dactyloctenium ringens*, *Ephippianthus schmidtii*, *Goodyera foliosa* var. *maximowicziana*, *Goodyera pendula* var. *brachyphylla*, *Gymnadenia camtschatica*, *Gymnadenia fujisanensis*, *Liparis krameri*, *Liparis kumokiri*, *Orchis aristata*, *Orchis graminifolia*, *Oreorchis patens*, *Platanthera florentii*, *Platanthera mandarinorum* var. *brachycentron*, *Platanthera ophrydioides* var. *monophylla*, *Platanthera sachalinensis*, *Yuania japonica*, *Myrmechis japonica*, *Liparis fujisanensis*, *Allium splendens*, *Menziesia kamatae* Mochizuki, *Anemone pseudo-altaica*, *Poa ogamotana* Mochizuki, *Gentiana triflora* var. *montana* (Hara) Hara, *Cerastium arvense* var. *ovatum*



# Outline of the Policies surrounding the Shirakami-sanchi World Heritage Area

Name of systems	Aims, etc.	Zonings and each area	Management classification	Details of the restrictions, etc.	Notes
Nature Conservation Area (Shirakami-sanchi Nature Conservation Area)	An area that fulfills a specific criteria such as an extraordinary natural forest, which is specially required to conserve its natural environment in light of natural and social conditions.	Special Zone, 9,844 hectares.	Core Area	Activities which need the approval of the Director-General of the Environment Agency. (Article 25) (1) Construction, reconstruction or extensions of buildings, (2) alteration of land shape, (3) mining and quarrying, (4) reclamation, (5) alteration of the water level or water volume in rivers, etc., (6) felling of trees or bamboo, (7) discharging waste water or sewage into designated lakes, marshes, rivers, etc., (8) use of vehicles or horses in the designated zone.	Nature Conservation Law
		Wildlife Protection Zone, 9,844 hectares (Same area as Special Zone).	Core Area	Restriction on the collection of and damage to 108 species of plants. (Species that are protected are listed separately on an attached sheet.) (Article 26)	
		Ordinary Zone, 4,199 hectares	Buffer Area	Activities that need written notification to the Director-General of the Environment Agency (Article 28) (1) Construction, reconstruction or extensions of buildings, (2) alteration of land shape, (3) mining and quarrying, (4) reclamation, (5) alteration of the water level or water volume in rivers, etc.	
Quasi-National Park (Tsugaru Quasi-National Park)	A park that contributes to people's health, recreation and enlightenment by protecting scenic beauty and also promoting its use.	Special Zone, 624 hectares	Buffer Area	Activities that need the approval of the Aomori Prefectural Governor (Article 17). (1) Construction, reconstruction or extensions of buildings, (2) felling trees or bamboo, (3) mining and quarrying, (4) alteration of the water level or water volume in rivers, etc., (5) discharging waste water or sewage into designated lakes, marshes, rivers, etc., (6) installation of advertisements, (7) reclamation, (8) alteration of land shape, (9) collection of designated plants, (10) Changing the color of the surface of buildings, etc., (11) use of vehicles or horses in the designated zone.	Natural Parks Law
		Special Protection Zone, 344 hectares	Core Area Buffer Area	Activities that need the approval of the Aomori Prefectural Governor (Article 18). Along with (1) through (8) and (10) and (11) listed above, (12) damage to trees or bamboo, (13) planting of trees or bamboo, (14) grazing livestock, (15) accumulation of things, (16) setting a fire, (17) collection of fallen leaves or branches, (18) capturing animals.	
Akashi Keiryu-Anmon no Taki Prefectural Natural Park		Special Zone, 1,952 hectares	Buffer Area	Activities that need the approval of the Aomori Prefectural Governor. (Activities the same as those regulated in Quasi-national Park Special Area.)	Aomori Prefecture Natural Parks Ordinance
Kimimachizaka-Fujisatokyo Prefectural Natural Park		Special Zone, 8 hectares	Buffer Area	Activities that need the approval of the Aomori Prefectural Governor. (Activities the same as those regulated in Quasi-national Park Special Area.)	Akita Prefecture Natural Parks Ordinance



population activities by the Regional Forestry Offices and its branch offices, and also at the Fujisato Forest Center.

-3- To create posters and leaflets that disseminate and promote a sense of conservation, and as appropriate, to distribute to bulletins and visitors. And to construct directories, explanations, signs, etc.

-4- To study and develop a program on environmental education activities. And to discuss what should proper guidance for observers, researchers and mountain-climbers within the Heritage Area.

#### (6) Research and Monitoring

Since there remain many unknown aspects of the natural environment in the Heritage Area, academic research and long-term monitoring will be conducted for collection of basic data. There will be long-term monitoring especially of the natural environment and the impact of humans on the Heritage Area.

Furthermore, base facilities for research and monitoring will be created. The facilities will conduct activities such as the collection and distribution of data, and storage of samples. Special emphasis will be placed on the construction of base research facilities such as the Shirakami-sanchi World Heritage Conservation Center.

There will also be active coordination and cooperation on the research and monitoring with concerned organizations.

#### 5 Implementation of the Plan, and Other Items

Concerning details for hunting, harvest of edible wild plants, fishing, outdoor recreation, etc., there will be proper confirmation of the details through the Liaison Committee, based on this management plan and considering when necessary opinions of the local people, etc.

Furthermore, this management plan shall be reviewed as the necessity arises, responding to changes of social conditions etc. At such time, opinions of the local people will be taken into consideration.





conservation.

For animals such as the Asian black bear, studies on natural environment as well as monitoring of the animals' activities will be implemented. According to the results of those studies, there will be an appropriate implementation of conservation measures such as establishment of the Wildlife Protection Area based on the Wildlife Protection and Hunting Law.

#### **A. Core Areas**

The felling of trees or bamboo and the collection of plants will be strictly restricted, except in the cases of academic research and other special circumstances. There will also be strict restrictions on the capturing of or other acts preventing the breeding of animals designated as Natural Monuments.

There will be strict restrictions on activities that may have an adverse effect on the habitat or breeding grounds of animals or plants such as alteration of the land shape, etc.

#### **B. Buffer Areas**

To promote the conservation of animals and plants, there will be regulation on acts that may have a negative effect on the habitat or growth environment of plants or animals, such as alteration of the land shape.

### **(3) Outdoor Recreation**

To prevent loss of the value of natural environment of Shirakami-sanchi as a World Heritage Area, effort will be made to appropriately guide outdoor recreation, according to the policies of each management classification. For forest roads around the Heritage Area which may affect entry of people to the Core Area, there will be discussions on possible measures for proper access such as regulation of transportation by private passenger vehicles.

#### **A. Core Areas**

The use of already-existing pathways for mountaineering and hiking will be appropriately guided to prevent negative impact on the plants and animals.

There will be regulation on other outdoor recreation activities.

#### **B. Buffer Area**

Use of the forests for cultural and educational purposes, creation of simple recreation spaces, and an area to get in contact with the pristine nature will be admitted, to the extent that it does not infringe upon the intent of the conservation systems in place.

### **(4) The Implementation of Management Programs**

On management of the Heritage Area, there will be appropriate implementation of management programs promoting local understanding and cooperation.

#### **A. Patrol**

The Environment Agency and the Forestry Agency, while coordinating with each other, will implement suitable patrol activities within the Heritage Area by District Forestry Officers and others. To support these activities, public volunteers will be commissioned to patrol the Area.

The Aomori and Akita Prefectures will each commission Nature Conservation Leaders to implement patrol activities on the issue of managing the Heritage Area.

Aside from systematizing these patrol policies, to promote the more effective patrol mechanisms in the entire area, there will be increased coordination between the related organizations through the Liaison Committee.

For those District Forestry Officials etc. that possess legal and law enforcement qualifications as police, to swiftly enforce the regulations, there will be an implementation of patrol and inspection activities. There will also be a strengthening of communication mechanisms among the organizations concerned when illegal activities are found out.

#### **B. Management Facilities**

To promote appropriate management of the Heritage Area, necessary signs, patrol paths, etc., will be set up with consideration to the effects that may have on the natural environment.

### **(5) Information and**

#### **Environmental Education Activities**

It is important to promote the understanding and the cooperation of the people on the value of the Heritage Area and the necessity of its conservation through such means as the dissemination of information and environmental education. To achieve these goals, there is a need to create a mechanism that disseminates information on the nature and culture of the Heritage Area and the available facilities, etc. There is also a need to explain the value that the natural setting of Shirakami-sanchi holds, and to actively provide opportunities and places for visitors to learn on their own. Specifically, these are measures that will be considered for the present.

-1- To construct a facility that can display and explain concept of the World Heritage Area at suitable sites.

-2- To provide information on the forest system, its workings and the proper manner in which people should get in contact with the forest through enlightenment and



primeval state of the forest in the reserve and that needs strict maintenance of the forest ecosystem. Besides academic research and emergency measures taken during times of natural disaster, changes are basically left up to natural succession, without human disturbance. In the Conservation and Utilization Zone, which serves as a buffer to prevent the environmental change to outside the reserve from directly affecting the forests in the Preservation Area, no forestry operations for the purpose of timber production are conducted. Yet, according to the natural conditions, the educational use or recreational use that does not accompany large-scale development is to be conducted. The whole Heritage Area overlaps with the Forest Ecosystem Reserve, and its Preservation Area coincides the area of the "Core Area," and the Conservation and Utilization Zone does the area of the "Buffer Area."

#### D. Natural Monuments (Protected Species)

The Minister of Education, under the Law for the Protection of Cultural Properties, can designate certain animals and plants (including habitat areas, breeding grounds, migration grounds and natural habitats) and geological minerals (including areas that have extraordinary natural phenomenon) that are of high academic interest in Japan and are particularly important as "Natural Monuments." Of these natural monuments, those of particular importance can be designated "Special Natural Monuments."

Of the animals and plants inhabiting or growing in the Heritage Area, *Capricornis crispus* has been designated as a Special Natural Monument. Furthermore, *Dryocopus martius*, *Aquila chrysaetos japonica* and *Glirulus japonicus* have been designated as Natural Monuments. It is therefore necessary to have approval of the Commissioner for Cultural Affairs to change the current habitat of these species or to take action that would have an effect on the preservation of these species.

#### (3) Management Structure

The Heritage Area will be managed through close collaboration among the administrative bodies concerned with the systems of aforementioned: the Environment Agency, the Forestry Agency, the Agency for Cultural Affairs, Aomori Prefecture and Akita Prefecture.

To promote more effective cooperation and collaboration for the management of the Heritage Area, the "Shirakami-sanchi World Heritage Area Liaison Committee" (henceforth the "Liaison Committee") will be established as a forum for coordination and communication among the administrative bodies. This committee will promote mutual cooperation and collaboration, as well as manage the Heritage Area in

unified, appropriate and smooth manner.

Since it is essential to enhance understanding and cooperation of the local people, effective management of the Heritage Area, the Liaison Committee will seek to promote cooperation with the local municipalities and organizations concerned.

## 4 Management Measures

### (1) Basic Policy

The Heritage Area will be appropriately conserved according to the delineation of the Core and Buffer Areas to prevent loss of the value of the area as a World Heritage.

From the perspective of implementing unified, efficient and effective management of the area, the administrative bodies concerned will promote smooth collaboration, and encourage coordination through forums such as the Liaison Committee, etc.

#### A. Core Area

Fundamentally, this area will be left up to natural changes without artificial intervention. Acts such as the construction of buildings, collection of soil, stones and rocks, and other acts that may threaten the conservation of the natural environment (unless it is for special purposes such as academic research, etc.) will be strictly regulated based on the aforementioned conservation systems in place.

Because of the widespread publicity of the area due to its inscription on the World Heritage List, there has been an acute increase in the number of people who enter some parts of the Heritage Area, possibly causing negative effects on natural environment of the area. There will be regulation on entry into this area, except entry such as mountaineering through already-existing foot paths. There will be further discussion to set modes of the regulation based on state of the entry, opinions of the local people, etc.

#### B. Buffer Area

As necessary to conserve the current situation, there will be regulation on certain types of activities. There will be special regulation particularly on activities that may have an adverse effect on the natural environment of the Core Area. Forestry operation for the purpose of timber production will not be conducted. The existing artificial forests in the area will, through uneven-aged forest works etc., be transformed into natural forests in the future.

### (2) The Protection of Animals and plants

According to the management classifications, necessary measures to conserve the animals and plants in the area will be taken based on the aforementioned systems for the



The Heritage Area is divided into two management classifications: 1) the core area (hereinafter referred to as "Core Area") that has especially high-grade vegetation, and has had little human impact; and 2) the area that surrounds the Core Area and serves as a buffer zone (hereinafter referred to as "Buffer Area"). This is the nominated area that was expanded on the recommendation by the World Heritage Committee Bureau Session). The management of the Heritage Area will be conducted according to this management classification.

The area of each management classification:

Core Area: 10,139 ha

Buffer Area: 6,832 ha

Total area: 16,971 ha

## (2) Outline of the Designation Systems for Conservation

For the Core Area, there is strict enforcement of conservation under the jurisdiction of several rules: the Special Zone and Wildlife Protection Zone of the Nature Conservation Area, the Special Protection Zone of Quasi-national Park, and the Preservation Area of the Forest Ecosystem Reserve.

For the Buffer Area, conservation measures take place under the jurisdiction of the Ordinary Areas of the Nature Conservation Area and the Conservation and Utilization Zone of the Forest Ecosystem Reserve. Within the Buffer Areas are included parts of Quasi-national Park and Prefectural Natural Parks. (See Diagram - 3 Designation Division Map)

### A. Nature Conservation Area

The "Nature Conservation Area" is an area that fulfills a certain number of criteria, such as having extraordinary natural forests, and specifically needs to have the natural environment conserved. The Director-General of the Environment Agency designates and manages these regions in accordance with the Nature Conservation Law.

The core parts of Shirakami-sanchi were designated as "Shirakamisanchi Nature Conservation Area" under the aforementioned law in July of 1992. In this area, there are 9,844 hectares designated as a "Special Zone" that should have special conservation measures implemented. Activities such as the construction of buildings, alteration of the land shape, mining, felling trees or bamboo, etc., need the approval of the Director-General of the Environment Agency. The same district is designated as a Wildlife Protection Zone, and the collection of or damage to 108 species of protected plants is prohibited. These zones are completely included in the Core Area.

An area that is not designated as a "Special Zone" is an

"Ordinary Zone" and written notification to the Director-General of the Environment Agency is required for the construction of buildings that are over a certain size, alteration of the land shape, etc. All Ordinary Zone is included in the Buffer Area of the Heritage Area.

### B. Natural Parks (Quasi-National Park, Prefectural Natural Park)

The aim of Natural Parks is to protect the scenic beauty and also to promote the use of the area, and to simultaneously contribute to people's health, recreation and enlightenment. Three types of parks are designated, based on the Natural Parks Law: "National Park," "Quasi-National Park," and "Prefectural Natural Park."

The Heritage Area includes the Tsugaru Quasi-National Park (managed by the Aomori Prefectural Governor upon the designation of the Director-General of the Environment Agency in accordance with the aforementioned law), Akashi-Keiryu-Anmon-No-Taki Prefectural Natural Park (designated and managed by the Aomori Prefectural Governor based on the ordinance) and the Kimimachizaka-Fujisato-kyo Prefectural Natural Park (designated and managed by the Akita Prefectural Governor based on the ordinance). Within the Tsugaru Quasi-National Park, there are two distinct zones. Within the "Special Zone," because of due consideration to the protection of the park as well as the importance of the continued access to its use, the approval of the Prefectural Governor is necessary for the construction of a building, felling trees, etc. Within the "Special Protection Zone," the Prefectural Governor's approval is required for acts such as the aforementioned construction and felling, the collection of animals and plants, the collection of fallen leaves and branches, and bonfires. Restrictions are enforced in each area. Within the Prefectural Natural Parks in both prefectures, a "Special Zone" has been established, and similar regulations are enforced.

### C. Forest Ecosystem Reserve

The "Forest Ecosystem Reserve" is an area established and managed by the Forestry Agency in accordance with the National Forest Management Rules. Its goals are to maintain natural environment consisting of forest ecosystem, protect plants and animals, to preserve gene pool, to advance technology of forest management and to contribute to academic research in core parts of Shirakami-sanchi, etc. through conserving as a area with a substantial size of old growth forest that represents forest zones in Japan. An area around Japanese beech forests was established as the "Shirakami-sanchi Forest Ecosystem Reserve" in March, 1990, based on the aforementioned Rules.

The Preservation Area is an area that shows the most



## 1 Aim

This management plan aims for appropriate and smooth management of the Heritage Area through fostering a close relationship among the administrative bodies concerned (i.e. the Environment Agency, The Forestry Agency, The Agency for Cultural Affairs, Aomori Prefecture and Akita Prefecture). It also clarifies basic policy for application of the various systems, promotion of various programs, etc.

## 2 Outline of the Heritage Area

Shirakami-sanchi is a general name for the mountainous area extending from 100 to 1,200 meters above sea-level and straddling the prefectural border between south-east Aomori and north-west Akita Prefectures.

The basic geology is mainly made up of granite-type rocks formed during the Cretaceous Period of the Mesozoic Era, and sedimentary and intrusive rocks that date from the mid-new era of the third new period of the Cenozoic Era.

The geography shows full maturity with deep, densely interlaced valleys. Over half the Area is covered with steep slopes over 30 degrees.

In Japanese beech (*Fagus crenata*) forest in this area, diverse plant communities coexist and abundant animal groups live. This region therefore presents a museum-like landscape of forest mainly of Japanese beech trees which are indigenous to Japan.

The Heritage Area is located in the core part of Shirakami-sanchi, far away from urban areas, and with its steep slopes few trees have never been felled in the forest. There has been some traditional usage, such as collecting edible wild plants, by a small number of local people, but these activities have had minimal impact. This has left the Heritage Areas with wild Japanese beech forests that have hardly been affected by human activities.

Regarding rivers, there are dams in some parts, but the river features have been well preserved within the Heritage Area.

The history of conservation in this area is relatively new.

The first clear systematic conservation measures were implemented with the establishment of a Forest Ecosystem Reserve in 1990, and the designation as a Nature Conservation Area in 1992.

The outline of the Heritage Area is as follows.

### (1) Location

The Heritage Area is located in a mountainous area that straddles the prefectural border between south-west Aomori and north-west Akita prefectures, between latitude 40 degrees 22 minutes and 40 degrees 32 minutes North, longitude 140 degrees 2 minutes and 140 degrees 12 minutes

East, extending from 300 to 1,243 meters above sea-level, ranging over Mukai-Shirakami-dake.

The towns and villages concerned are: In Aomori Prefecture: Aigasawa-machi, Fukaura-machi, and Iwasaki-mura in Nishi-Tsugaru-gun, and Nishimeya-mura in Naka-Tsugaru-gun. In Akita Prefecture: Fujisato-machi, Yamamoto-gun. (See Diagram 1 - Location Diagram)

### (2) Area

The total area of the Heritage Area is 16,971 hectares. The entire area is national forest under the jurisdiction of the Forestry Agency.

### (3) Flora

In the Heritage Area, Japanese beech tree forest in primeval state remains as the climatic climax in Japan's cool temperate zone. Over 500 different species have been confirmed in the forests, and at taluses, rocky areas, and wind-swept sites around the peaks. Included within this number are plants endemic to this region, such as *Silene aomoriensis*, and plants that have an extremely limited range of habitats such as *Ranzania japonica*, species that are in their northernmost and southernmost occurrence, and other valuable plants such as alpine flora.

### (4) Fauna

There are many types of mammals, birds, insects, reptiles, amphibians, fresh-water fishes and other animals that live in the rich beech forest as their habitats.

Of the 16 species of medium to large mammals known to inhabit the Tohoku Region of Japan, 14 species - excluding only *Sus scrofa* and *Cervus nippon* whose inhabitation are difficult due to heavy snowfall - are known to inhabit the Region. Included within this number are *Macaca fuscata*, *Ursus tibetanus*, and the Special Natural Monument *Capreolus crispus*.

Eighty-four species of birds, including *Aquila chrysaetos japonica* and *Dryocopus martius*, both of which are designated as Natural Monuments, as well as other rare species, including *Spizaetus nipalensis orientalis* and *Histrionicus histrionicus* have been confirmed to inhabit the Area. Insects are most abundant, with approximately 2,000 species confirmed to inhabit the Area. Within this number are those within the northernmost and southernmost occurrence of their habitat.

## 3 Framework of Management

### (1) Basic Framework

For the purpose of maintaining the value of the area as a World Heritage, there will be unified management of the whole Heritage Area, while keeping in mind the aims of individual systems for conservation.



# Shirakami-sanchi World Heritage Area Management Plan



## Preface

The Japanese beech (*Fagus crenata*) forest in the Shirakami-sanchi World Heritage Area (herein after referred to as "Heritage Area"), is unique among world forests because of its high purity, preservation of old growth trees and diversity of plants and animals. It is representative of new beech forest that appeared in East Asia after the Ice Age. Furthermore, it is a salient example of an on-going ecological process with various community types and stages of regeneration.

The natural environment in this area has been deemed "An outstanding example representing significant on-going ecological and biological processes in the evolution and development of terrestrial, fresh water, coastal and marine ecosystems, and communities of plants and animals."

The Area was inscribed on the World Heritage List in December 1993, based on the World Heritage Convention.

The following is the process by which the inscription on the World Heritage List took place. In June of 1993, three recommendations were given by the Bureau Session

of the World Heritage Committee. They were: 1) the expansion of the nominated area, 2) upgrading its legal status, and 3) completion of the management plan improving the administrative structure of the site.

To respond to these recommendations, the Japanese Government gave the following answer in September of the same year: 1) a decision to expand the nominated area, 2) confirmation that this area is strictly conserved under the current systems, and 3) a commitment to establish a liaison committee with the agencies and the two prefectures concerned, and to enhance well-collaborated management by formulating a management plan.

The World Heritage Committee evaluated the Japanese Government response and decided in favor of the inscription on the List. Following these events, this management plan was formulated.

In the course of the formulation, an outline of the draft management plan was publicized in September 1995, and the final plan was formulated considering opinions expressed through a public meeting and letters.





# Shirakami-sanchi World Heritage Area Management Plan

The Environment Agency

The Forestry Agency

The Agency For Cultural Affairs